

INTERNATIONAL PROSECUTION SECTION

Doc. No. 1624

15 May 1946

ANALYSIS OF DOCUMENTARY EVIDENCE

DESCRIPTION OF ATTACHED DOCUMENT.

Title and Nature: Pamphlet, Baron Shidehara's address
before Imperial Diet

Date: 21 Jan 26 Original Copy Language: Japanese

Has it been translated? Yes No

Has it been photostated? Yes No

LOCATION OF ORIGINAL (also WITNESS if applicable)

Document Division

SOURCE OF ORIGINAL: Central Liaison Office (Letter of
transmittal.)

PERSONS IMPLICATED: SHIDEHARA

CRIMES TO WHICH DOCUMENT APPLICABLE: Relations with ABC
Powers and Russia.

SUMMARY OF RELEVANT POINTS (with page references):

Covers strengthening of Jap garrison along South
Manchuria Ry. The announced Jap policy, in relation to
China.

See Doc. #1625 and #1626.

Analyst: C.W.J. Phelps

Doc. No. 1624

444

See Doc 1625 for
Letter of Transmittal
Covering this
Document

大正十五年一月三十一日

1101

1624

第五十一帝國議會ニ於ケル幣原外務大臣ノ演說

私ハ茲ニ先例ニ依リ帝國議會ノ前會期以後ニ我國ノ直面セル諸般ノ外交問題ニ付政府ノ執レル政策ノ大體ヲ説明シテ諸君ノ御諒解ヲ得タイト考ヘマス

支那ニ於テハ近來内政上及外交上極メテ重要ナル時局ノ發展ヲ見タノテアリマス一昨年ノ奉直戰爭ノ終局ト共ニ支那ノ各地方ニ在リテ兵力ヲ擁スル諸黨派モ久シキ國內ノ戰亂ニ疲レタル如ク見エ政局ハ暫ク小康ヲ得マシタ昨年二月開催セラレタル時局善後會議モ相當ノ成績ヲ舉ケテ無事ニ閉會シマシタ支那ノ對外關係ニ於テ多年ノ懸案タリシ金法問題モ圓滿ナル解決ヲ告ケ華府會議ノ結果タル九國條約ハ愈々八月五日ヲ以テ調印國全部ノ批准寄託ヲ了スルコトトナリマシタ庶政改善ノ事業モ一時ハ將ニ緒ニ就カムトスルノ運ニ至リマシタ斯ノ如ク支那ノ平和的且秩序アル發達ニ對シテ我々ハ滿腔ノ同情ヲ以テ之ヲ見タノデアル之カ爲ニハ我々ハ直

外務省

接間接ニ友好的援助ヲ與ヘタコトモ勘クハアリマセヌ
圖ラスモ昨年四月頃ヨリ支那一派ノ分子中ニハ上海青島等ニ於テ
日本紡績工場ノ職工ニ同盟罷業ヲ煽動スルモノカアリマシテ勞働
條件改善ノ要求ハ忽チ一轉シテ使用者竝警察官憲ニ對スル暴行脅
迫トナリ五月ノ末最不幸ナル上海事件ノ勃發ト共ニ再轉シテ現行
國際協定ノ打破ヲ目的トスル政治運動ト化シ爾來其ノ騷動ハ支那
ノ各地ニ波及スルニ至リマシタス如キ騷動ハ最早單純ナル勞働
爭議トハ認メラレマセヌ暴力ヲ以テ日本人竝外國人ノ生命財産ノ
安全ヲ脅威スルモノテアリマスカラ政府ハ直ニ夫々必要ナル我居
留民保護ノ手段ヲ執リマシタ支那ノ各地ニ亘リテ我居留民ハ多數
ナル割合ニハ被害ノ勘カツタコトハ誠ニ幸テアリマス又此等ノ保
護手段ニ對シ我支那派遣艦隊ノ將卒カ終始極メテ有效且適切ナル
協力ヲ與ヘタコトハ我々ノ深ク満足スル所テアリマス
暴動事件ノ善後處置ニ至リテハ問題ノ性質ニ依リ或ハ關係列國全

體ト協同シ或ハ我國單獨ニテ支那ノ中央政府又ハ地方官憲ト交渉
シ夫々解決ノ途ヲ講スルコトニナリマシテ既ニ解決ヲ終ヘタモノ
モアリマスカ其ノ細目ハ餘リ煩雜ニ亘リマスカラ茲ニ省略シタイ
ト考ヘマス

更ニ一層重要ナル問題ハ昨年十月頃ヨリ支那ニ於テ又々發生セル
動亂テアリマス浙江ノ孫傳芳將軍カ奉天軍ニ對シ事ヲ擧クルニ至
リタル遠因又ハ近因ハ支那ノ國內事項テアルカラ私ハ此ノ際論評
ヲ避ケマス事實ニ於テ十月ノ初孫軍一度行動ヲ開始スルヤ奉天軍
ハ上海ヲ去リ南京ヲ棄テテ終ニ山東省迄引揚クルコトトナリマシ
タ
斯ノ如ク奉天軍カ中央支那方面ニ於テ頗ル不利ノ形勢ニ陥ツタニ
拘ラス十一月中旬頃ニ在リテハ東三省内ノ情況尙著シク動搖ノ狀
モナク又急ニ動亂ノ波及スヘキ模様モ見エナカツタノテアリマス
カラ當時我滿洲駐屯軍ノ兵員中年限ノ滿チタルモノハ常例ニ依リ

内地ニ送還セラレテ除隊歸休トナリマシタ
然ルニ十一月二十四日灤州方面ニ駐屯セル奉天軍司令官郭松齡將
軍ハ突如トシテ張作霖將軍ニ反抗シ奉天ニ向ツテ進軍スルコトト
ナリマシタ之ニ對シ張將軍ノ側ニ於テハ直ニ退テ第一ノ防禦線ヲ
連山方面ニ設ケタヤウニ見エマシタカ十二月ノ初二至リ奉天軍ハ
格別ノ激戰ヲ交ヘスシテ連山附近ノ陣地ヲモ棄テ更ニ退イテ遼河
方面ニ最後ノ決戰ヲ試ミルノ形勢カ追々明トナツテ來マシタ茲ニ
於テ我關東軍司令官ハ十二月八日附ノ聲明ヲ以テ其ノ當然ノ職責
ノ存スル所ヲ張郭兩將軍ニ警告シ以テ兩軍ノ注意ヲ促シタノデア
リマス
前ニ述ヘタル滿洲駐屯軍ノ兵員中十一月中旬ニ除隊歸休トナツタ
モノノ補充ハ例年ノ慣例ニ依リ本年一月中ニ行ハルル當初ノ豫定
テアツテ其ノ以前ニハ絶對的必要ト認メラルル最後ノ瞬間迄補充
兵員ノ派遣ヲ見合ハス考テアリマシタカ十二月十四日夜ヨリ翌朝

ニ亘リテ一ノ新ナル形勢カ生シマシタ即チ其ノ間ニ滿洲方面ヨリ
到着セル電報ニ依レハ郭軍ノ一部隊ハ突然營口ヲ對岸ニ現ハレタ
ル事實確マリ同方面ニ於テモ張郭兩軍ノ衝突ヲ生スル危險ヲ豫想
セサルヲ得サルニ至リマシタ之カ爲ニ滿鐵沿線ニ於テ我駐屯軍ノ
特ニ警戒ヲ要スル守備區域ハ南ハ營口ヨリ北ハ鐵嶺ニ至リ當時駐
屯軍ノ減少セル兵力ヲ以テハ到底守備ノ任務ヲ完ウシ難キコトハ
明瞭トナツタノテアリマス
固ヨリ曩ニ關東軍司令官ノ發セル聲明ニ對シテハ張郭兩將軍共ニ
能ク之ヲ諒悉シ其ノ軍事行動ヲ執ルニ當リテハ十分ニ日本ノ權利
利益ヲ尊重スヘキコトヲ期待サレマシタカ若シ數日ニ亘リテ各方
面ニ混戰ノ状態ヲ呈スルカ如キ場合ニ立至リマスレハ雙方ノ軍隊
共ニ無意識ニ鐵道附屬地ニ侵入シテ市街戰、追擊、迫擊等ヲ行フ
ノ虞アルノミチヲス敗竄兵力規律節制ヲ失ヒ掠奪暴行ヲ爲スコト
ハ從來屢々例ノアルコトテアリマス斯クノ如キ危險ナル形勢カ十

二月十五日ニ至リ愈々切迫セルモノト認メラレタルガ故ニ即日政
府ハ意ヲ決シテ駐屯軍ノ兵數ヲ十一月中旬迄ノ情態ニ復セムカ爲
ニ直ニ缺員補充ヲ行フコトトナツタノテアリマス其ノ後遼河ノ決
戰終了シ東三省ノ事態カ大體平靜ニ歸シ始ムルト共ニ曩ニ我駐屯
軍ノ缺員補充トシテ臨時ニ滿洲ニ派遣セラレタル部隊ハ逐次ニ原
駐地ニ送還セラレマシテ一切ノ應急措置ハ今日ニ於テハ既ニ悉ク
解除セラレタ次第テアリマス

之ヲ要スルニ最近ノ支那ノ内亂ニ於テモ一昨年ノ奉直戰爭ノ場合
ニ於ケルト等シク政府ハ帝國議會ノ前會期ニ於テ説明シタル一定
ノ方針ヲ以テ終始一貫シタノテアリマス其ノ方針トハ即チ第一ニ
支那ノ内政ニ付テハ絕對ニ之ニ干涉セサルコト第二ニ我權利及利
益ニ付テハ凡ユル正常手段ニ依リテ之ヲ擁護スルコトヲ期スルモ
ノテアリマス

世間ニハ滿洲方面ニ於ケル日本ノ行動ニ對シ常ニ一種ノ邪推ヲ以

テ觀察スルモノカナイテハアリマセヌ我滿洲駐屯軍ノ缺員カ補充
セラルレハ直ニ之ヲ以テ奉天軍援助ノ目的ニ出テタルモノナリト
証ヒ我軍司令官カ張郭兩軍ニ對シテ等シク其ノ營口入市ニ異議ヲ
唱フレハ直ニ之ヲ以テ郭軍ノ軍事行動ヲ阻止スルノ内意ヲ含ムモ
ノナルカ如ク傳ヘ百方日本ヲ中傷セムトスルモノノアルノハ誠ニ
遺憾ニ堪ヘマセヌ我々ハ此等ノ風説ノ全然誤レルコトヲ斷言シ公
平ナル歴史ハ結局何ヨリモ明白ニ我眞意ノ存スル所ヲ證明スヘキ
コトヲ確信スルモノテアリマス尙滿洲方面ニ於ケル我文武官憲カ
過般ノ重大ナル時局ニ當ツテ同心協力能ク政府ノ方針ヲ遂行シ又
全ク人道上ノ見地ヨリ敗軍ノ將卒竝ニ之ト事ヲ共ニセル人々ノ生
命ヲ救助セムカ爲百方力ヲ盡シタルコトハ我々ノ衷心ヨリ悦フ所
テアリマス

斯ノ如ク我々ハ徹底的ニ支那ニ於ケル内政不干渉主義ヲ勵行スル
ト同時ニ我正常ナル地位ニ關シテハ及フ限り擁護ノ手段ヲ執ツタ

ノテアリマス日本カ滿蒙地方ニ於テ有形無形ノ最重要ナル權利利益ヲ有スルコトハ周知ノ事實テアル其ノ權利利益ニシテ外形ニ現ハレ戰亂ニ依リテ破壊セララルル危険ノアルモノハ主トシテ滿鐵沿線ニ存在スル實況テアリマス之カ保護ハ過般我々ノ執リタル手段ニ依ツテ其ノ目的ヲ達セラレタルモノト認メマス無形ノ權利利益ニ至ツテハ今回ノ戰亂ニ依ツテ影響ヲ受クルノ虞ナク事實ニ於テモ亦何等影響ナカツタコトハ我々ノ確信スル所テアリマス固ヨリ東三省地方全部カ平穩ノ情態ヲ保チ戰亂ノ慘禍ヲ免レルコトハ支那住民ノ爲亦我居留民ノ爲誠ニ望マシイコトテハアリマスケレトモ之ハ當然支那ノ責任テアル我々カ妄ニ自ラ其ノ責任ヲ引受ケムトスルナラハ現在國際關係ノ基礎的觀念、華府條約ノ根本原則並帝國政府ノ累次ノ聲明ヲ悉ク無視スルノ外ハアリマセヌ我々カータヒ之ヲ無視スルナラハ我國家ノ名譽、威信ハ茲ニ永遠ニ失ハルルコトヲ覺悟セネハナリマセヌ我々ハ何トシテモ斯ノ如キ

無謀ナル行動ヲ執ルコトハ出來マセヌ
次ニ支那關稅特別會議ニ付テ簡單ニ説明申上タイ支那ニ於ケル時
局ノ進展ヲ仔細ニ觀察スルモノハ近年支那國民カ政治的ニ覺醒セ
ムトスル徵候カ追々現ハレ來レルコトヲ認メサルヲ得ナイト思ヒ
マス古イ支那ハ漸ク過キ去リ新シイ支那カ之ニ代ラムトシツツア
ルノテアリマス我々ハ偏ニ支那ノ健全ナル發達ヲ冀フト共ニ其ノ
前途アル青年ノ中ニハ動モスレハ無根ノ風説、惡意ノ宣傳ニ迷ハ
サレテ危險且破壊的ナル政治運動ニ熱中スルモノアルヲ見テ隣
邦ノ將來ノ爲深キ憂慮ヲ抱ク次第テアリマスケレトモ大體ニ於テ
近年支那ノ情態カ著シク變遷セル事實ヲ無視スルノハ大ナル誤テ
アルト考ヘマス軍事上ノ權力者ハ戰亂ノ運命ニ依ツテ或ハ興ルモ
ノモアリマセウ或ハ倒レルモノモアリマセウ併シナカラ國民的自
覺ハ一度發生スレハ決シテ消滅スルモノテハアリマセヌ外部ヨリ
壓迫ヲ受クレハ却テ益々深刻ヲ加フルモノテアリマス而シテ支那

國民間ニ於ケル斯ノ如キ自覺ノ一端ハ近來關稅自主權回復ノ要望
トナツテ現ハレテ來タノテアル我々ハ特ニ此ノ形勢ヲ察シテ關稅
會議ニ對スル方針ヲ決定シタノテアリマス
會議カ十月二十六日ヲ以テ開カルルヤ否ヤ果然其ノ劈頭ニ於テ支
那全權ハ關稅自主權問題ヲ提起シマシタ之ニ對シ我代表者ハ政府
ノ既定方針ニ依リ絶エス支那ノ立場ニ同情的態度ヲ採リ列國トモ
密接ナル接觸ヲ保チツツ幾多ノ難關ヲ排シ遂ニ十一月十九日ノ委
員會ニ於テ支那ノ關稅自主權承認ニ關スル一ノ決議カ成立シマシ
タ之ト同時ニ我々ノ目的トスル所ハ日支兩國ノ共存共榮テアル我
々ノ求ムル解決方法ハ日支雙方ニ向ツテ公平ナラムコトヲ期スル
モノテアル支那國民モ亦專ラ自己ノ立場ノミヲ見テ日本ノ商工業
カ如何ナル影響ヲ受クルトモ之ヲ顧ミサルカ如キ不合理ナル要望
ヲ抱クモモテハナイコトヲ信シマス
十二月初頃ヨリ支那國內ノ形勢カ急ヲ告クルニ至ツタト共ニ自然

關稅會議ノ進行モ抄々シカラス只時々主トシテ非公式ノ會合ヲ開クニ止マツテ居ツタケレトモ我々ハ事情ノ許ス限り會議ノ繼續及ヒ促進ヲ望ムテ居ルノテアリマス

又最近支那ニ於ケル治外法權委員會モ開會ノ運ヒトナリマシタ素ヨリ完全ナル法權ヲ回復セムトスル支那國民ノ正當ナル希望ハ我々ノ常ニ同情ヲ表スル所テアリマス今回ノ委員會ハ華府會議ノ決議ニ基イテ特定事項ニ付事實ノ決定ヲ與ヘ又意見ヲ建議スルノ任務ヲ有スルモノテアリマス我々ハ多大ノ興味ヲ以テ其ノ結果ヲ見ムトスル次第テアリマス

露國トノ關係ニ至ツテハ引續キ順調ナル發達ヲナシツツアルノハ誠ニ喜フヘキコトテアリマス北薩哈噠ニ於ケル石油石炭ノ利權ニ付テモ十二月十四日ヲ以テ夫々我營業者ノ代表ト露國當局トノ間ニ契約ノ調印ヲ終ヘマシタ此等ノ契約ハ昨年一月ノ北京條約ニ伴フ當然ノ結果テハアリマスケレトモ若シ露國政府ニシテ衷心ヨリ

日露ノ經濟的協力ヲ圖ルノ意向カナカツタナラハ今回ノ結果モ恐
ラク期シ得ラレナカツタノテアリマセウ從テ本問題交渉ノ成立ハ
兩國民間ノ親交ヲ表彰スルモノトシテ我々ノ歡迎スル所テアリマ
ス
我々ハ今日何レノ國トモ排他的ノ親善關係ヲ結フノ意思ヲ有ツテ
居リマセヌ總テノ列國ニ對シ表裏ナキ友情ヲ以テ交ルコトカ我國
ノ進ムヘキ最モ賢明ナル筋途テアルト信シマス之カ爲ニハ我々ハ
適確ナル證據モナク漠然タル想像ヲ根據トシテ他國ノ眞意ヲ速斷
スルカ如キコトハ避ケネハナリマセヌ多クノ場合ニ於テ重大ナル
國際間ノ紛糾ハ邪推、偏見ニ源ヲ發スルモノテアリマス此ノ點ハ
日露ノ關係ヲ考慮スル上ニ於テ篤ト念頭ニ置カネハナリマセヌ過
般或ハ露國カ北滿洲ニ於テ何等カノ侵略計畫ヲ有スト云フカ如キ
風説カ傳ハツタヤウテアリマスカ私ハ今日迄知り得タル限り之ヲ
信スヘキ何等ノ根據ヲ見出シマセヌ昨年日露國交回復以來我々ハ

兩國關係ノ諸問題ニ付テハ露國政府トノ間ニ常ニ密接ナル接觸ヲ保チ隨時腹藏ナキ報道及意見ノ交換ヲ行ヒ來ツタノテアリマス我々ハ此ノ方法ニ依リ兩國間ノ不必要ナル誤解ヲ除キ以テ其ノ國交ノ維持増進ヲ期シテ居ル次第テアリマシテ今後モ亦同一ノ目的ノ爲及フ限り努力スル覺悟テアリマス

歐洲諸國トノ關係ハ目下極メテ順當ナル狀態ニアリマシテ其ノ前途ニ暗影ヲ投スルカ如キ何等ノ紛争問題ナキノミナラス何レノ國トモ益々國交増進ノ形勢ヲ認メ得ラルルノテアリマス過般調印セラレタル「ロカル」條約ハ性質上純然タル歐洲問題ニ關スルモノテアリマスカラ日本ハ調印國テハアリマセヌケレトモ此等ノ條約ハ歐洲ノ政治上及經濟上ニ於ケル時局ノ安定ヲ促カシタモノテアツテ之ニ依リ國際聯盟ノ前途ニ益々光明ヲ與ヘ延イテハ世界一般ノ平和ト進歩トニ貢獻スルコトハ疑ヲ容レマセヌ又目下英國ニ御滞在アラセラルル秩父宮殿下カ總テノ方面ヨリ誠心ヲ籠メテノ

歡待ヲ受ケサセラレツツアルノヲ伺ヒマシテハ我々ハ誠ニ感激ニ堪ヘサルト共ニ兩國間ノ友情ハ極メテ鞏固ナル根底ヲ有スルコトヲ感シテ深ク満足スル次第デアリマス

我國ハ土耳其トハ昨年始メテ大使ヲ交換スルコトトナリマシタ我々ハ近東方面ニ於ケル錯雜セル歐洲問題ニ付テハ飽迄不偏不黨ノ第三者タラムコトヲ欲スルモノデアリマスカ之ト同時ニ明治二十四年ノ軍艦「エルトグルール」事件以來我國民ト土耳其國民トノ間ニ存スル好感情ハ益々之ヲ増進シ又同國方面ニ於テ我商工業發展ノ新天地ヲ開拓セムコトヲ期待スルモノデアリマス

翻テ日米關係ヲ見ルニ一昨年ノ米國移民法中所謂日本人排斥條項ニ付テハ政府ノ意見ハ私カ一昨年及昨年共ニ當議場ニ於テ申述ヘタ通りテアリマシテ其ノ意見ハ茲ニ何等變更シ又ハ布衍スルノ必要カアリマセヌ又今日本問題ヲ徒ラニ反覆論議スルコトハ何等有益ナル結果ヲ來タスモノトモ思ハレマセヌ只我々ハ國際禮讓並正

義ノ觀念ト一致セサルモノト認メラルル日本人排斥條項ニ對シ深ク遺憾ニ感スルコトハ今尙渝ラナイコトヲ明ニスルニ止メタイト考ヘマス

併シナカラ大勢ヲ通觀スルニ米國ニ於テ日本ニ對スル諒解カ近年著シク進ンテ來タコトハ何人モ米國ノ事情ニ通スルモノノ快ク認ムル所テアリマセウ嘗テ日本人攻撃ノ急先鋒テアツタ人々ノ中テ今ハ穩健ナル意見ヲ公言スルモノハ尠クアリマセウ嘗テ日本ニ關シテ何等ノ興味ヲ有セヌ又ハ先天的ニ一種ノ偏見ヲ抱イテ居タ人々ノ中テ今ハ熱心ニ公平ニ我國ノ真相ヲ研究セムトスルモノモ尠クアリマセウ凡ソ正シキ諒解ハ眞實ナル友情ノ基テアリマス今日日本ニ對スル態度ニ付米國ニ於テ見受ケラルル大體ノ傾向ハ兩國關係ノ前途ニ深ク望ヲ囑セシムルニ足ルモノト考ヘマス

我國ハ又墨西哥並南米諸國トハ全ク親善ナル關係ヲ保ツテ居リマス我々ハ素ヨリ此等諸國トノ關係ニ於テ何等政治上ノ意味ヲ含ム

カ如キ計畫ヲ有ツテ居リマセヌ併シナカラ同方面ニ於テハ我國民ノ經濟的發展ノ爲十分ノ餘地アルコトヲ認メマシテ及フ限リ其ノ正當ナル活動ヲ獎勵スル方針テアリマス
終リニ移民問題ニ付テ一言ヲ附加ヘタイト考ヘマス我々ハ何レノ國ヘモ其ノ歡迎セサル移民ヲ送ラムトスルカ如キ意思ヲ有シマセヌ只未タ開拓セラレサル地方ニ資本又ハ勞力ヲ供給シ單ニ移住者又ハ其ノ本國ノ爲ノミナラス彼等カ新ニ墳墓ノ地トシテ定住スル國ノ爲何レモ等シク其ノ繁榮・幸福ヲ増進スルコトカ我々ノ一貫セル希望テアツテ之レカ爲政府ハ十分力ヲ盡ス覺悟テアリマス
以上ノ説明ニ依リ對外問題ニ關スル政府ノ意見ヲ大體御諒察アラムコトヲ希望致シマス此ノ政策ヲ決定シ施行スル上ニ於テ我々ハ國家ノ一時的利害ニ依ツテ輕々シク動カサレサルコトニ深く注意ヲ加ヘタノテアリマス國家ハ永遠ノ生命ヲ有スルモノナルカ故ニ外交ノ目標トスル所ハ國家永遠ノ名譽・威信・利益ヲナケレハナ

リマセヌ私ハ此ノ信念ニ基キ幸ニ諸君ノ御贊助ニ依リマシテ私ノ
重大ナル責務ヲ盡サムコトヲ期シテ居ルモノデアリマス

外
務
省